

## 桜島火山ガス組成

SO<sub>2</sub> 放出量が低下した 2015 年後半以降の火山ガス組成は、それ以前と明確に変化しており、火山ガス放出条件等の変化が生じていると推察されるが、原因の特定にはデータが不十分である。

SO<sub>2</sub>/H<sub>2</sub>S 比は、2015 年上半までは通常 10 前後、火山灰放出後等に 100 以上と、高い値が得られたが、2015 年後半以降は 1 前後と低い値を示している。変化の原因としては、脱ガス圧力の増加、出口温度の低下、熱水系の形成等が考えうる。

CO<sub>2</sub>/SO<sub>2</sub> 比は 2015 年上半までは 1 前後であったが、2015 年後半以降は 20 以上と高い。CO<sub>2</sub>/SO<sub>2</sub> 比の増加は、脱ガス圧力の増加と整合的である。ただし、2015 年後半以降は SO<sub>2</sub> 放出量が小さく、観測された噴煙濃度が低い。そのため測定誤差および地表近傍大気の影響が大きく、CO<sub>2</sub>/SO<sub>2</sub> 比の信頼性が低いため定量的な評価は困難。

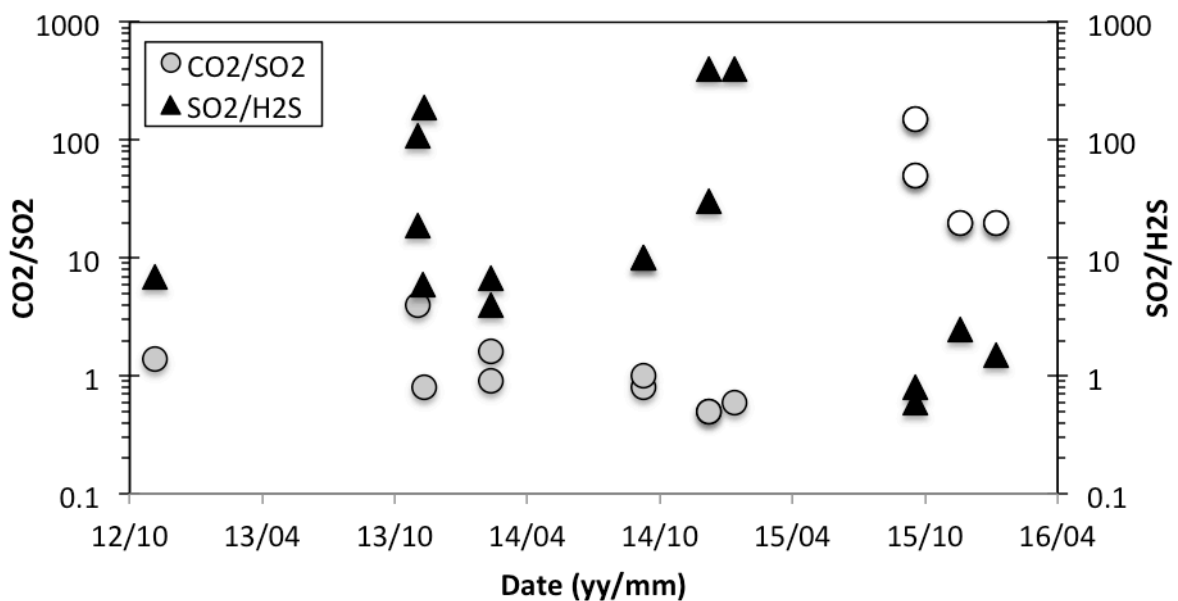


図 無人ヘリおよびセスナ機を用いた航空機噴煙観測により得られた桜島火山ガス組成の変化（白丸は信頼性が低いため参考値）。